

平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

文武両道の良き伝統を継承し、地域環境にも配慮した未来型の学校をめざす
生徒も教職員も元気で、笑顔のある、地域に信頼される開かれた学校をめざす

(学校像)

1. 生徒一人ひとりの可能性を最大限伸ばさせ、夢や目標、希望する進路を実現させる学校
2. 社会人基礎力（考え抜く力、行動する力、チームワーク力）の育成をめざし、社会貢献できる人材育成を図る。
3. 「知、徳、体、食、芸術」「文武両道」「ワークアンドライフバランス」などグローバルでバランスのとれた人間性豊かな人材育成を図る。
4. 全教職員が学校運営に積極的に参画し、質の高い教育を提供する学校
5. 保護者、地域、大学、中学校、関係機関と連携し、生徒が「入学して良かった」と思いを持てる学校

(生徒像)

1. 自らの基本的な生活習慣をコントロールし、社会人として通用するマナーとモラルを身につけ生きる力を育む。
2. 自らの目標や夢に向かって、基礎学力とPISA型学力向上に向けて努力する。
3. 文化、芸術（音楽・美術・書道・工芸）・スポーツを愛し、心豊かな感性とチーム力を育む。
4. 世のため、人のため、地球、社会、国際貢献などボランティア精神を育む。
5. 様々な人々と共に生き共に歩める国際人権感覚を育む。

2 中期的目標

(1) 学校教育力の充実向上と、本校の特色をアピールする

- ・生徒指導（携帯・遅刻）、学習指導（教養、7時間、エリア選択）、将来を見越したキャリア教育（大学進学に重点をおいたカリキュラム）の実績を土台にする。
- ・新カリ、社会人基礎力、大学センター入試に対応する、「エリア、選択科目」の見直し、授業改善を図る。（センター受験者の平均が全国の平均点に近づくことをめざす）
- ・現在の基礎学力定着の取組みをベースに、教師の教えて考えさせる授業を活性化させ、生徒の言語活動重視やコミュニケーション力、プレゼンテーション力の向上を目標に、授業改善、カリキュラムの精選を図る。
- ・図書室の活用による読書活動の推進、新聞の活用（英字新聞）、情報機器の活用を積極的に図る。
- ・各教科において、「国際」「情報」「環境」「人権」「キャリア」「介護福祉」「河内・大阪学」の視点で、時代の変化に対応した教材の質を高め、実生活に対応できるようにする。
- ・「総合選択制」「選択教科」に対する満足度を高める。

(2) クラス、生徒会、部活動、学校行事の活性化を図り、生徒の自主性を育成する。

- ・笑顔での挨拶を励行し、明るく元気な活気のある学校をめざす。
- ・生徒会による、生徒会だより、部活動の報告など生徒の生き生きした取組みを内外に発信する。
- ・学校行事（文化祭）の活性化に向けて、コーラス大会、各文化部発表会などを定着させる。
- ・広報活動に生徒を積極的に参加させる。
- ・オーストラリアとの国際交流を通じて、国際理解教育を推進する。中国、韓国その他のアジアの国々との交流をも検討する。

(3) 環境教育の推進と地域の小、中、大学との交流・連携を図る

- ・自立支援生徒、生徒会、環境美化係の生徒を中心に、花、畑作りを行う。
- ・現在のパンジーの取組みを、地元の幼、小、中学校などに拡大する。
- ・現在の八尾市内の環境教育ネットワークの輪を広げ、環境教育で先進的な学校との交流を図る。
- ・本校の生徒が、小、中、福祉施設へのボランティア活動に参加すると共に、「環境教育」などを通じて、大学との連携も積極的に図る。

(4) 将来を見据えたキャリア教育の推進

- ・「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業により外部の人材活用を積極的に図り、生徒の自主性と連動させながら、生徒一人ひとりのキャリアデザインに積極的に働きかける。

(5) ICTを活用した校務の効率化と教育環境整備を図る

- ・校内インフラを活用し、情報の共有と緊急生徒対応などスピード化を図る。
- ・校務分掌を見直し、生徒と向き合える時間、教員同士が共通理解を持てる時間を増やす。
- ・「電子黒板」「タブレットパソコン」を多くの教員が活用できるよう研修を行う。
- ・LAN教室、自学自習室などの教育環境の整備を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年 1月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】 「授業がわかりやすい」の項目で肯定的な回答が62%と低い。 授業アンケートの「授業に集中している」の項目では80%近い肯定的な回答があるので、授業における指導スキルの向上と、授業内容特に難易度が本校生徒の実態に即しているのかを含めた検討・改善が必要である。 「家庭での学習時間を確保している」の項目で肯定的な回答が41%。 家庭での学習時間が必然的に増加する策を講じる必要がある。</p> <p>【生徒指導等】 「生活規律や学習規律など基本的習慣の確立に力を入れている」の項目で肯定的な回答が78%と高い。どのような場面においても時間を守るという指導を徹底し、遅刻者数は年間を通して一人当たり平均0.8回を下回る。保護者の支持も高く、今後も本校の強みのひとつとなるであろう。 「進路実現に向けて適切な指導がある」の項目で肯定的な回答が81%と高い。3年間を通じた計画的な進路指導計画を立て実行していくことで更なる満足度の上昇をめざす。</p> <p>【学校運営】 「コンピューター等のICT機器の授業での活用」の項目で肯定的な回答は46%と低い。授業での活用について全教員による研修が必要である。また、「人権意識を高める指導をしている」の項目で肯定的な回答は65%にとどまる。3年間を通しての人権教育計画を再検討し、肯定的回答80%超をめざす。</p>	<p>第1回 (6/28) ○H25年度学校経営計画について ・生徒が少しおとなしすぎると感じるので、「元気な学校」をめざす取組みを積極的に行うようにしていただきたい。 ・7月に実施される授業アンケートの結果を分析して、生徒の授業満足度が高い数字を示すよう各教科で授業や家庭学習の指導に工夫されたい。 ○生徒指導・進路指導について ・遅刻者数の少ないのは評価できる。携帯電話については、生徒からマナーやモラルについて提言させ、自分たちで律することが大切である。 ・大学ではミスマッチから編入者が増加している。エリア選択についての指導が重要。</p> <p>第2回 (11/6) ○授業アンケート（第1回）の集計結果について ・教員の評価の数字としては良い数字である。予習について低い数値の教科があるが、家庭学習の方法がわからないのではないかと。宿題を増やすのが方策としては良い。 ○27年度からの専門コースへの改編について ・今まで実績をあげてきたエリアをうまく組み合わせることでコースを設定すればどうか。</p> <p>第3回 (3/3) ○授業アンケート（第2回）の集計結果について ・プレゼンテーション能力の育成が十分でない。アウトプット型の授業を取り入れ、生徒の意見を引き出す工夫をしてみようか。 ○H26年度学校経営計画について ・中学校はしっかりと生徒指導をしてくれる点を高く評価している。今のよさを維持しながら、特色をよりアピールしていくことが大切である。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学校教育力の充実に 本校の特色をアピール	<p>★ 学区の再編、普通科総合選択制の見直しに対応し、本校の特色を明確化する。</p> <p>★ 考える力、コミュニケーション力、プレゼン力、チームワーク力等の育成</p>	<p>・将来構想委員会などを設置し、翠考会グループ討議など全職員で本校の特色をアピールできる校内体制を検討する。</p> <p>・年2回、生徒による授業アンケートを実施し、授業のレベルを上げ、生徒が主体的に学べる分かりやすい授業をめざす。特に、1, 2学期には、研究授業月間をもうけ、他者への、授業改善案を作成する。</p> <p>・新聞、新図書、タブレットパソコン、情報機器を活用し、基礎学力とともにプレゼン力を育成する。</p> <p>・キャリア教育などの外部専門家を活用し、生徒が興味を示し学習意欲を高める授業改善を行う。</p> <p>・各教科で学期ごとに授業見学を行い、ベテラン教員のノウハウを若手教員に継承する。</p> <p>・地元小、中学校と授業、行事、部活などで連携し、本校の生徒、教育情報を日常的に伝える。</p>	<p>・学校教育自己診断による授業満足度「授業は分かりやすい」の8割以上をめざす。</p> <p>・年2回の研究授業月間をもうけ、全教員による2名以上の授業者に対する助言の作成と授業改善案を提出する。</p> <p>・センター入試を100以上が受験しその平均点を全国平均に近付けることをめざす。</p>	<p>・研究授業や教科会議を通して「わかりやすい授業」の実現に向けて取り組んだが、学校教育自己診断の「授業はわかりやすい」の項目における肯定的な回答が62%にとどまった。(×)</p> <p>年2回実施した授業アンケートの「授業に集中している」の項目では80%近い肯定的回答があるので、指導法とあわせて指導内容の見直しにも取り組みたい。</p> <p>・年2回の研究授業月間を設け、教員相互の授業見学と研究協議を実施したが、教科内での実施にとどまった。(△)</p> <p>・最後まであきらめない指導を徹底し、今年度もセンター試験に98名がチャレンジした。平均点は全国平均点の約80%にとどまったが、上位30名に限ると、英語・国語・日本史Bにおいて全国平均を上回った。(○)</p>
生徒の自主性を育成する	<p>★ 部活動の活性化と学校行事参加意欲の向上を図る。</p> <p>★ 環境教育を通じて共に学び共に生きる豊かな心と社会貢献ボランティア精神を育む。</p>	<p>・生徒会主催者は運営委員会に参加し、生徒会活動を全教職員で支援する体制を作る。</p> <p>部活外部顧問の活用と連携を促進する。</p> <p>・専門的な指導者(プロ)や地域、OB, PTAの人材を招き、特に文化部の育成を図る。</p> <p>・国際交流委員会を開催し、オーストラリアへのホームステイの取組みを準備する。</p> <p>・クリスタルカップを通じて中高連携を図る。</p> <p>パンジー、マリーゴールドの取組みを、周辺地域の小、中、高齢者施設などへ拡大する。</p> <p>・小学校の大和川付替え工事の歴史学習や「講念仏踊り保存子ども教室」の取組みと連携し、生きた歴史・環境学習に取り組む。</p> <p>・文化財センター、八尾市、柏原市、八尾土木事務所などとの連携をはかる。</p>	<p>・部活動参加率70%をめざす(新入生は80%)</p> <p>・文化祭、体育祭の満足度6割以上をめざす</p> <p>クリスタルカップの開催</p> <p>八尾地区生徒会交流会を成功させる</p>	<p>・部活動加入率66%(3学年平均)</p> <p>1年生は76%</p> <p>文化部加入率が16%(3学年平均)と低いので、今後は文化部の魅力を生徒に発信する方法を検討したい。(△)</p> <p>・体育祭・文化祭ともに実施後の生徒アンケートの結果、満足度は70%強であった。今後はさらに生徒の自主性を育てる行事としたい。(○)</p> <p>・クラブ活動を通じた中学校との連携で、クリスタルカップを開催。(バレー部、バスケット部)</p> <p>高校生はスタッフとしてかかわることで、指導力が向上し、中学生は高校でのクラブ活動継続の動機付けになった。(○)</p> <p>・生徒会役員の交流会を実施し、生徒会活動の活性化のヒントを得ることができた。(○)</p>
将来を見据えたキャリア教育の推進	<p>★ 生徒一人ひとりの可能性を最大限伸ばし、自らキャリアデザインを構築するような姿勢を育成する。</p>	<p>・キャリア教育の観点から、卒業後の進路を見据えた進路指導のカリキュラムを入学時より3年間で構築する→各学年の進路行事・進路HR等の適切な時期における配置。</p> <p>・地元小学校への生徒によるボランティア交流教室の実施など「受動的な活動」から、より「能動的な活動」をめざす。</p> <p>・保護者の理解と協力を求め家庭と連携して指導に当たる。進路に応じた保護者のガイダンスを実施する。進路発信型の広報活動として、HPの充実、出身中学への進路先の報告(生徒が中学に報告)、卒業生の追跡調査(大学・短大卒業後の就職先等)、卒業生からのメッセージを集めて発信する。</p>	<p>学校教育自己診断アンケートの進路指導の満足度(80%)をめざす。(生徒・保護者)</p> <p>・HPの進路指導のページの充実→外部評価</p> <p>・卒業時の就職内定率100%をめざす</p>	<p>・学校教育自己診断の「進路実現に向けて適切な指導がある」の項目で、生徒、保護者ともに81%の肯定的回答があった。(◎)「エリア選択のガイダンス」の項目もほぼ80%の肯定的回答を得ている。3学年通して平均した数値であることから、本校の3年間を通しての進路指導計画が一定評価されていると考える。次年度以降、更なる満足度の上昇をめざし取り組みたい。</p> <p>・学校ホームページの更新回数は昨年と比較し数倍に増加したが、まだ十分とまでいえない。中学生やその保護者の閲覧は増加しているが、本校生徒や保護者の閲覧が多くないので、閲覧数を増やす方法を検討したい。(△)</p> <p>・就職内定率は90%を超えた。(○)</p> <p>公務員も現役で2名合格。既卒を入れると5名。</p>
ICT活用と校務の効率化	<p>★ ICTを活用した校務の効率化とIT環境の整備を図り魅力ある授業を展開する。</p> <p>★ 自学自習、生涯学習能力など一人ひとりの可能性を最大限伸ばす。</p>	<p>校内のデータ管理とネットワークを図り、情報の共有、HPなどによる情報発信を行い、生徒、保護者、中学生に本校の教育活動の「可視化」を図る。</p> <p>・各分掌、各学年だよりなどHPを通じて発信。</p> <p>・「調べ学習」「読書課題」「プレゼン」などの生徒が自ら考えるための教材、教育情報を提供し、一人ひとりの学力を向上させる。</p>	<p>・自学自習室、図書室の利用率(貸し出し率)1.5倍をめざす。</p> <p>・HPを日常的に更新する生徒会、部活、PTAの情報発信を組織的に行う</p>	<p>・自習室の利用者数は、長期休業中および課業期間を通して昨年とほぼ変わらなかった。(△)</p> <p>学校教育自己診断の「家庭での学習時間を確保している」の項目の肯定的回答が41%しかないため、生徒の意識改革を進める指導を強化し、そのことにより自習室の利用者数も増加させたい。</p> <p>・図書館の利用者は、年間で一人平均7回。貸出冊数は、年間で一人平均3冊。利用率は昨年とほぼ変わらなかった。(△)</p>